

## 4-②. 北区事務所での活動支援

— 多様な活動に取り組む 37 団体に、1, 465 件の会場・備品提供

長年、市民活動団体の活動拠点となってきた北区事務所は、「会場利用登録」団体と「パートナー登録」団体のうち希望団体に対して活動拠点の支援を行い、2009 年度も年間 1, 000 件を超える会場利用があった。利用団体の約 3 割がセルフヘルプグループというのも北区事務所の特徴である。

### 1. 会場利用登録団体への支援

2009 年度に北区事務所（大阪市北区同心 1）で会場・備品を利用した団体は、「会場利用登録」30 団体、「パートナー登録」7 団体であった（会場・備品利用を希望しない「パートナー登録」団体を除く）。

表 4-1 北区事務所での活動支援内容

項目	内容
利用可能時間	火・木・土曜日 10:00~20:45、水・金曜日 10:00~17:00
登録料	会場利用登録料（年度=5,000 円） ※パートナー登録料（年度=10,000 円）でも利用可能
会議室の提供	会議室 4 部屋+フリースペースの提供 ※会議室利用協力金（1 回=300 円以上；2003 年度より導入）
備品の貸出・提供	備品（マイク・アンプ、プロジェクター、ビデオ、OHP、スクリーン、CD ラジカセ、点字版・点字タイプ、演台、名札、専門図書等）の貸出（使用料無料） コピー・印刷機、紙折り機の提供（使用料無料、ただし消耗品実費分は負担）
ロッカーの提供	ロッカー小（年度=1,000 円）・ロッカー大（年度=3,000 円）の提供
事務局機能の支援	レターケースの貸し出し、郵便物・荷物の受け取り、電話の取り次ぎなどの支援
事務スペースの支援	（特活）おおさか行動する障害者応援センター、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会の 3 団体には、コーディネーション活動を行うための専用電話の配線（機器、回線使用料は団体負担）を認めるとともに、事務スペースの支援を行った。 ※事務スペース利用協力金（年度=使用頻度に応じて個別に設定；2003 年度より導入）
その他	ボランティア情報や講座・イベント情報の広報協力、「The ボラ協」の無料送付、市民活動総合情報誌『Vo!o(ウォロ)』の年間購読料の半額割引 など

表 4-2 北区事務所の利用状況（下欄は 08 年度実績）

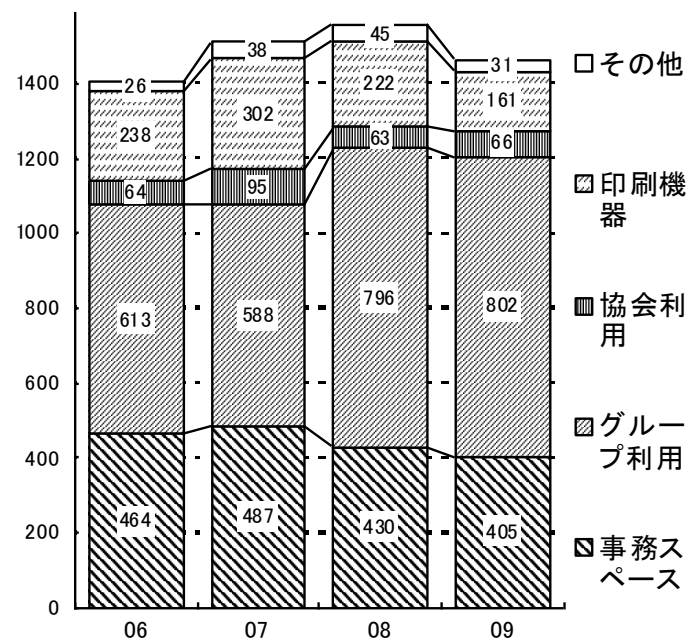
	会場利用	印刷機器	ビデオ他	合計
件数	1, 273 件	161 件	31 件	1, 465 件
	1, 289 件	222 件	45 件	1, 556 件

※ 登録団体には無償でレターケース 17 台を貸し出し、小ロッカー 28 台、大ロッカー 5 台を有償貸与した。

コーディネーション活動に取り組む 3 団体（（特活）おおさか行動する障害者応援センター、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会）には、事務スペースを支援した。3 団体の事務スペース利用は年間 405 日にのぼった。また一般の市民活動団体の会場利用は 802 件、大阪ボランティア協会の事務局利用は 66 件であった。

北区事務所は、火・木・土曜日は 10 時~20 時 45 分、水・金曜日は 17 時まで開館（日・祝・月曜日は閉館）。

図 4-3 北区事務所での会場・備品類の貸出状況



### 2. 会場利用登録団体の状況

2009 年度の会場利用登録団体 30 団体の状況を以下に示す。（代表者名は 2009 年度の登録時点、敬称略、50 音順）

グループ・団体名	代表者	活動内容
A A オアシスグループ	則包 隆司	匿名のアルコール依存症者を対象に毎週土曜日夜にミーティングを実施。
A A 関西ヤングミーティング	岩崎 友紀	35 歳以下のアルコール依存症者の回復を目的に毎週木曜日にミーティングを実施。
A A リバースグループ	金光 秀晃	飲酒をやめたい願いを抱えている人を対象に、毎週火曜日夜にミーティングを実施。

A C O D A ローズズ	松野美花子	アダルトチルドレンと自覚のある人を対象に毎月第1、第3火曜日と毎週土曜日夜にミーティングを実施。
青山正さんと共に歩む会	森 修	障害者である青山正さんの生活介助・支援を通して知的障害者の地域での生活を考える。毎月第4火曜日夜に会議室を利用。
あじさい会	岡本 敏子	視覚障害児が楽しめる「さわる絵本」を作り、市立盲学校の文化祭に展示、府立盲学校の訪問読み聞かせを実施。毎月第2・4木曜に会議室を利用。
アトピーを笑い飛ばす会 “あとつぶ”	山下 剛史	一人でアトピーを苦しまず、同じ病をもった人達が情報交換し明るく向きあうことをめざしている。
E A 天満グループ	和合 英樹	感情の問題で悩む人々に対してミーティングを中心とした活動を行う。毎週木曜日夜に会議室を利用してミーティングを実施。
N A ナルティグループ	—	薬物依存症者のためのセルフヘルプミーティングを毎週土曜日夜に会議室を利用して実施。
特活) N P O 政策研究所	直田 春夫	持続可能な社会の実現を目指して、調査研究、研修、自主研修、政策提案に取り組む。
大阪交通遺児を励ます会	青木 勝	交通遺児家庭への精神的支援。また、交流会や機関誌の発行。交通事故防止運動にも取り組む。
大阪市都島断酒会	樋口 和夫	アルコール依存症の回復とその家族のための交流会を実施。毎週水曜日午前から夕方まで会議室を利用。
大阪市シルバーアドバイザー 連絡協議会	奥 善充	【新規】シルバーアドバイザー養成講座終了後、その後の資格、技能を生かし、幼児から高齢者を対象に活動を行う。
大阪手びきの会	三木さと子	視覚障害者の外出介助。北区事務所内に事務局を置き、ニーズ調整。
大阪府シルバーアドバイザー 連絡協議会	和佐 義顕	シルバーアドバイザー養成講座の修了者で構成され、資質の向上のために努めることを目的に毎月第1、第3木曜日に理事会、役員会を実施。
おはなしグループ綿の花	小西萬知子	絵本から遠くにいる子ども達に、絵本の読み聞かせやお話を届ける活動及び技術向上のための講座の実施。毎月第4金曜日午前に会議室を利用。
高齢者福祉スタッフ 情報交換&交流会	大門 秀幸	高齢者福祉に関わる職員の方々による、情報交換・ネットワーク作り・施設見学会企画などを行う。
さわる絵本連絡協議会・大阪	小西萬知子	視覚に障害のある子どもにも絵本を読ませたいという親の発案のさわる絵本を製作し、普及していく。5月、10月に総会、例会を実施。
特活) シルバーアドバイザー・ ネット大阪	永田 得祐	シルバーアドバイザー養成講座修了者で構成。伝承おもちゃ作り、介護用具普及、国際交流、おもしろ算数教室等を開催。毎月1回程度、理事会を実施。
DAN会(団塊アクション ネットワーク会)	尾崎 力	団塊世代が社会で変革を起こす力をつけ、アクションを自ら起こすことを目指す。主に第3土曜日に会議室利用。
中卒・中退の子どもを もつ親のネットワーク	河地 敬子	不登校、高校中退、ひきこもりの子どもの親のセルフヘルプ。月1回ニュースレターの発行、月2回程度、第2・4木曜日午後定例会。
点訳サークル	丑島 準子	図書館、盲学校及び個人より依頼のある図書を点訳する。
点訳サークル「ふみ」	松木公美子	視覚障害者のための点字文書作成。初心者への点字指導。点字の普及。毎週火曜日夜に会議室を利用。
トミの会	中村 静	会員各自がそれぞれの地域で活動。年2回福祉施設の見学、会員相互の研修会、各地域・個別のボランティア活動、その他の情報交流を実施。
なにわ語り部の会	菅 寛子	童話や民話の語りを通じて世代に応じた豊かな人間形成と同じ時代を生きていく者としての連帯意識の向上。毎月第2土曜日午後定例会（8月除）
走ろう歌おう大運動会	乾 純一	障害者及び社会福祉に対して正しい認識を持ってもらうため、運動会やレクリエーション、学習会を通して障害者と健常者の交流を図る。
ひきこもり当事者による 自助グループ ひだまり	森 禎嗣	20歳以上の青年で人と接することが苦手でひきこもりの人や、心の悩みを抱えた人たちの交流会を実施。毎週土曜日午後定例会を利用。
プチ大阪兄弟姉妹会	金原 光成	【新規】精神障害者を兄弟にもつ兄・弟・姉・妹の立場で集い、障害者との接し方や情報交換を目的とし、毎月第2・4土曜日の午後定例会を利用。
マジック輝	二葉登代子	大阪府シルバーアドバイザー養成講座のOBが集い、毎月第2水曜に定例会をもち、研修を実施している。それを基礎に施設訪問やイベント等に参加。
みんなで作る コンサート実行委員会	平野 寛子	障害のある人ない人が一緒になってコンサートを実施するための準備・運営。月1回程度、土曜日午後定例会を利用。

※ 「パートナー登録」団体（別掲）のうち、北区事務所で開催・備品を利用した団体は7団体〔(特活)おおさか行動する障害者応援センター、(特活)大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪帆船と国際交流の会(SAIL'0)、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、くつろぎステーションつばさ、手話サークル「つくし」〕である。

※ 2008年度をもって退会した団体は2団体〔共育NGO To Be、エコリーグ〕である。

### 3. 「同心同志会」の取り組み

北区事務所を拠点とした新たな事業の開発や、拠点の有効活用の方策を検討し、実施につなげることで、北区事務所の有効活用や活性化をめざすため、北区事務所活用検討チーム「同心同志会」を設置している。

2009年度は、管理運営面では北区事務所の窓口体制を見直し、主に夜間の窓口対応については職員の輪番制を導入した。拠点の管理業務を複数の職員で分担したことによって、管理運営の仕組みが向上するとともに、拠点の有効活用を検討するための素地づくりとなった。環境整備面では業者による床清掃を行い、活動環境の向上を図った。